

横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。
例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

〈知的発達〉					
E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1
簡単な計算可					
簡単な文字・数字の理解可					
簡単な色・数の理解可					
簡単な言語理解可					
言語理解不可					
〈特記事項〉					
C:有意な眼瞼運動なし					
B:盲					
D:難聴					
U:両上肢機能全廃					
TLS:完全閉じ込め状態					
寝返り不可					
寝返り可					
座位保持可					
室内移動可					
室内歩行可					
戸外歩行可					
〈移動機能〉					

うららの 日常生活紹介 北島 可奈子

Aさん(横地分類A2)は、職員が側にいくと腕を伸ばして触れてきます。職員の反応を見るのが面白いようで、生きがい活動を行っている時も、職員の方にはかり気持ちに向き、提供しているものになかなか集中できません。現在の生きがい活動は、繰り返し、リズムのある絵本や、リズムカルなテンポのよ

い語りを楽しめるような絵本を読んでいます。始めは職員を気にしていて絵本に気持ちがいきません。しかし絵本『おしくらまんじゅう』の「おしくらまんじゅう、おされて、ギユ」や、絵本『おならうた』の「リズムで、ば」「おふろで、ぽ」というリズムカルな語りを何度か繰り返し読んでいると絵本に集中しはじめました。「おしくらまんじゅう」からページがめくられ、なつとうの「ねぼ」という様子の絵が変わったところでは、絵本を真剣な表情

また、Aさんは、職員の動きや職員が持っているものなどの動きをよく見えています。ボールや缶が転がる様子も目で追って見ます。しかし、ボールが転がるだけではすぐに飽きてしまいます。そのため生きがい活動では、クッションチェアに座ったAさんの膝の上から傾斜をつけるように板を置き、ボールが転がる先にピンを置きました。Aさんは、ボールの転がる様子をよく見ます。集中して、転がしたボールがピンに届くまで見ている時もあります。少ししかピンが倒れなかった時と、多くピ



でじつと見つめます。終わりに「おしまい」と言うと職員の顔を見てにっこり笑いました。

Aさんは以前、ヤカンに映った自分の顔を見て、楽しそうに声をだしていることがありました。鏡に映る見え方の変化も楽しめるのではないかと、三面鏡を使った活動もしています。三面鏡の片方を開きAさんを映すとチラッと見ます。次に反対側も開き映すと、またチラッと見ます。鏡の中にAさんが写らないよう角度を変えて開くと三面鏡を見つめ自分の姿を探します。そこで見つけるとウンウンと頷き満足そうな表情をします。自分の背後に職員が映り、目が合うと大笑いします。姿が



ンが倒れたときでは表情が違いました。多く倒れた時には、パツと表情が明るくなり満足しているように見えました。

Aさん(横地分類A1)は、職員が歩いていて急に方向転換をする様子や、職員同士がぶつかり、驚いている様子を見ては笑っています。職員の不意な動きやリアクションをこっけいに感じ、楽しんでいくようです。隣の利用者のケアをするために、カーテンの向こう側に職員が入っていくのを見ると、再びカーテンが開き職員が出てくることを期待しています。このような様子から、「物の見え隠れを楽しむ活動」を提供してきました。段ボールをくり抜いた穴からネズミの絵を出し左右に動かすと動きを追います。次に出てくるネズミが見えたら瞬時に視線を移します。次に出てくるネズミがいないと、

こだまの 日常生活紹介 白鳥 園枝



消えると今度は三面鏡のどこかに職員がいなか探し、みつけると満面の笑みを浮かべていました。